

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている やや良く なっている	-	-	-
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・低価格商品から高額商品まで消費は二極化しているが、いずれも活発に動いている。例えば、目玉商品の100個、200個のハンドバッグが短時間で売り切れ、また10万～20万円クラスの高額のアクセサリが1日に何本も売れている。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・気温がなかなか下がらないため、ヤング向けの婦人ファッションではジャケットが流行し、来客数、買上客数とも前年を上回った。また、昨年実施したプロ野球球団の優勝セールを今年には行わなかったにもかかわらず、売上は前年実績を超えている。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・今月は寒さの影響からか、カーディガンやジャケットなどが良く売れている。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・10月に発売されたコンパクトカーの出足がよく、販売台数の底上げに寄与している。
		乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・販売受注台数は3か月前と比較して約1割増加している。
		住関連専門店（店長）	単価の動き	・来客数が下げ止まった。プライダル、新築などの客の動きが良くなり、客単価も上がっている。
	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・宿泊部門は団体利用が減少し、一般宴会は前年の大型宴会に代わる宴会を取り込めず、伸び悩んでいる。一方、レストランの通常営業は利用客の増加により増収となる見込みである。婚礼関係はレストランの受注件数の増加、宴会場の組単価の上昇などにより増収を見込んでいる。3か月前と比べると宿泊部門の落ち込みが目立っている。	
	変わらない	一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	販売量の動き	・愛知万博の閉幕により客足が戻るかと期待していたが、あまり伸びていない。また、鮮魚の納入先の仕出屋や旅館などで廃業・休業が数件あった。
		百貨店（売場主任）	販売量の動き	・増税問題など消費の環境に明るさがみられないが、40～50代の男性客がファッションに目覚めつつある。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・月の中旬まで暑い日が続いたため、コート、ジャケットなどの重衣料の動きが鈍く、ニット、カットソーなど軽衣料中心の購買が目立った。このため、客単価が前年の90%程度まで低下した。中旬以降は旅行やレジャー関連の需要喚起により、婦人衣料は辛うじて前年の101%となった。
		スーパー（店長）	単価の動き	・週末には水産、精肉など的高額商品の動きがやや良くなったため、客単価は若干上昇している。
		スーパー（総務担当）	単価の動き	・来客数は横ばいであるが、特に食品の客単価が低下しているため、売上が前年を下回っている。
		スーパー（営業担当）	単価の動き	・来客数は前年並みであるが、客単価が低下している。買上点数は微減であるが、1品単価が競争激化や青果物の値下がりなどにより前年比10%程度落ちている。
スーパー（副店長）		単価の動き	・チラシ枚数を増やしてセールに臨んだが、期間中の来客数は増加したものの平日は減少し、今月のトータルでは前年の95%となった。単価は横ばいであった。	
コンビニ（経営者）	販売量の動き	・来客数は微増であるが、単価は低下しており、全体としては変わらない。		
家電量販店（経営者）	販売量の動き	・プリンターインク、用紙、デジタルカメラメモリー、USBメモリーなど小物のサプライ品の動きは良いが、プリンター、デジタルカメラ、パソコンなどの本体が前年割れとなっている。客の財布のひもはまだ完全に緩んでいない。		
家電量販店（店員）	販売量の動き	・テレビ、DVD関係は依然好調を維持している。半面、気温の影響もあって季節商品の販売が前年に比べて大幅に遅れており、全体では変わらない。		

		高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・愛知万博が閉幕し、団体旅行の集客が例年並みに戻ったが、夜の宴席が例年の水準まで伸びず、料亭や和食レストランでは苦戦を強いられている。一方、ステーキ専門店では得意の夏場を過ぎたが、例年を上回る集客が続いている。
		一般レストラン (店長)	来客数の動き	・競合が激しくない地域のためか、来客数、客単価ともほぼ横ばいで推移している。
		一般レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・10月は台風の影響を受けた前年より良くなっているものの、3か月前の状況とはあまり変わっていない。ただし、石油価格高騰によるガス代等の値上げにより、利益の圧迫は避けられない。
		観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・9月に愛知万博への駆け込みがあったため、10月は期待どおりの集客ができなかった。
		旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・10月に上海の定期便が就航したが、搭乗率がいまひとつで苦戦している。
		美容室(経営者)	来客数の動き	・依然として、客の来店サイクルが伸びている。
		住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・受注量は月によってかなり変動し、安定していない。客の態度は慎重で、決定までの時間が長くかかる状態が続いている。
		住宅販売会社 (総務担当)	来客数の動き	・テーマを絞った集客イベントの来場数は目標に達している。成約までの交渉過程はますますであるが、客の質は3か月前と変わらない。
やや悪くなっている		百貨店(営業担当)	来客数の動き	・郊外への出店は拡大傾向にあるが、中心街、駅周辺の集客力は減退傾向が続いている。また、不動産取引も郊外の一部で活性化しているが、中心街は地盤沈下気味である。
		コンビニ(経営者)	来客数の動き	・来客数、売上とも前年と比較して約3%落ちている。特に飲料やフライドフーズなど利益率の高い商品の減少が大きい。
		タクシー運転手	競争相手の様子	・今月も引き続き厳しい。利用客が増えない状況下で、他社との競争で客の奪い合いが続き、営業力のある会社を除き良くない。
		テーマパーク (職員)	来客数の動き	・愛知万博が閉幕したにもかかわらず、団体募集企画旅行の動きが鈍く、入場者数も前年と比較してやや悪く、予約状況も良くない。
		競輪場(職員)	単価の動き	・入場者数は減少傾向にあったが、今月は若干回復した。しかし、1人当たり売上高は3か月前と比較して7.6%減少し、従来の横ばい傾向から悪化に転じた。
		住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・土地の販売は堅調であるが、分譲住宅、注文住宅の販売は不振である。
		住宅販売会社 (従業員)	単価の動き	・最近では新築物件の着工数が減り、大規模なリフォーム工事が目立ち始めているため、住宅工事費が減少しつつある。
		住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・客からの値下げ要求が厳しい。最終契約になると更に値引きの要請がある。
	悪くなっている		商店街(代表者)	単価の動き
		乗用車販売店 (経営者)	来客数の動き	・最近では景気に左右されずに購入を決断する人や企業が限られてきた。しかも、ガソリン価格の高騰から燃費重視の傾向が強くなり、車を選択する際のキーワードは「小型、低燃費」となっている。
		スナック(経営者)	来客数の動き	・今月の売上は例年の2割減であった。団体客が数回来店した以外は客足が遠のき、来客のない日が週に2日もあったが、開店以来初めてのことである。
企業動向関連	良くなっている	一般機械器具製造業(経営者)	取引先の様子	・今月は工作機械の見本市が開催されたが、2年前と比較して入場者数は2割増であった。更に来場者の目の輝き、真剣さ、熱意が段違いであったことが印象的である。
	やや良くなっている	食料品製造業(企画担当)	受注量や販売量の動き	・既存品の落ち込みが止まり、消費動向が改善している。これに新商品が加わり、売上高の増加が目立っている。ただし、原料や燃料費の高騰から収益の悪化が続いており、業界全体の懸念材料となっている。

	プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・住宅向けの販売はあまり変わらないが、車両、機器部材などの産業資材関連が小ロットながら活発に動いている。	
	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・電話回線及びインターネット回線を光化する動きが個人からビジネスユーザーに拡大している。移行に伴うコスト比較などの依頼がかなり増えてきた。	
	司法書士	取引先の様子	・事業用資産の購入や新しい事業所の設置などが続いており、景気上昇の気運がうかがえる。	
変わらない	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注の確定がますます遅れ、小ロット化の傾向に拍車がかかっている。また、取引先の在庫管理がより厳しくなっている。	
	輸送業（配車担当）	それ以外	・物量は変わらないが、原油高騰による輸送コストの上昇を客に転嫁できないため、売上が伸びない。	
	輸送業（配車担当）	受注価格や販売価格の動き	・原油価格の高騰で輸送コストは上昇しているが、それに応じた運賃の値上げが見込めないため、利幅が減少している。	
	金融業（融資担当）	取引先の様子	・製造業では依然高水準の売上高を確保している。とりわけ工作機械、電子部品等の輸出関連では、円安が収益を持ち上げている。	
	新聞販売店〔広告〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注量は若干増加したが、単価が若干低下し、全体では変わらない。	
やや悪くなっている	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・予定していた受注が先送りになった。	
	精密機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・秋の新商品投入シーズンも終盤であるが、ここへ来て眼鏡フレーム産地の各メーカーから受注量が少ないという話が多く聞かれる。	
悪くなっている	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者のあちこちから、「今月は仕事が全くない」という声を聞く。	
雇用関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・求職者に占める在職者の割合が増加傾向にあり、また求人数も前年比14.7%増加している。ただし、非正規型求人が5割を超えたことから、まだ不安定な状況である。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・求人は活発で、適材の求職者が不足している。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・正社員以外の臨時的な求人雇用が目立つ。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人数は3か月前と変わらない。新規取引先からの求人は少なく、また慢性的に人手不足である飲食・販売サービス業の募集もアルバイトやパートが中心である。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・10月の求人広告は前年同月比で約1割減少している。内容的にはパートやアルバイトの募集が多い。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・前年に比べて企業からの求人数が多く、学生の採用内定も多い。
	やや悪くなっている	-	-	-
悪くなっている	-	-	-	